

ナツアカネ・アキアカネ

Sympetrum darwinianum・Sympetrum frequens



<生物の写真>

上の写真はナツアカネ

<環境写真>

分類群	魚類	貝類・甲殻類	爬虫類・両生類	昆虫類					
種の特性	絶滅危惧種	危急種	希少種	外来種	指標種				
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄

【分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。ナツアカネは北海道では産地が限られるが、西日本では比較的普通に見られる。アキアカネは北方に多い傾向があり、東北日本ではとくに多く、九州南部では少ない。

【名前の由来】

ナツアカネは夏に見られる茜色のトンボ、アキアカネは秋に見られる茜色のトンボの意味。両者とも一般的に「赤トンボ」の名前で親しまれている。東北ではトウガラシトンボ、カミナリトンボなどと呼ばれる。

【形態的な特徴】

ナツアカネは体長 38mm（腹長 22～27mm、後翅長 25～31mm）、アキアカネは体長 40mm（腹長 23～31mm、後翅長 26～34mm）ほどの大きさで、ナツアカネの方がひとまわり小さい。未熟なうちは両種の雌雄とも橙黄色の地に黒色の斑紋がある。成熟すると雄は赤みを増すが、ナツアカネは複眼も含めて体全体が真っ赤になるのに対し、アキアカネではおもに腹部のみが色づく。両種はよく似ているが、胸部の模様などで見分けることができる。

幼虫の体長は、ナツアカネでは 14～16mm（頭幅 6mm）、アキアカネでは 17～20mm（頭幅 6.5～8mm）ほどである。

[ナツアカネとアキアカネの見分け方](#)

【生態的な特徴】

成虫は、両種とも6月から12月頃まで見られる。ナツアカネは、羽化後も羽化水域からそれほど遠くない木立などに分散して生活するが、アキアカネは羽化後しばしば大集団となって山地に大移動し、秋に再び平地に戻ってくる。ナツアカネの雄は、成熟すると植物の先端に止まって縄張りを張り、雌を見つけたとただちに連結、交尾する。交尾後、雌雄は連結したまま稲穂など草丈数十 cm の植物の上をすれすれに飛び、上空から卵をばらまくようにして[打空産卵](#)をおこなう。一方、成熟して山から下りてきたアキアカネは、産卵に適した浅い水たまりを見つけると近くの草むらなどで交尾をし、連結したまま水たまりの水面や水際に雌の腹部を打ちつける[打水産卵](#)あるいは[打泥産卵](#)をおこなう。秋に産卵された卵は、卵のまま越冬し、翌春、孵化して幼虫となる。

【生息環境】

両種とも平地から低山地の草丈のあまり高くない[挺水植物](#)の繁茂する池沼や湿地、水田、溝などに生息する。しばしば、池やプールなどの人工的な環境でも見られる。アキアカネは、とくに明るい開放的な空間を好み、ごく浅い水域に産卵するという特性があることから、平地の水田地域が非常に適した環境となっている。

【生息状況】

水田地域だけでなく、市街地の学校のプールや人工的な小水域などの環境で生息できることから、都市部でもごく普通に見られ、個体数も比較的多い。

【生態系保全のための留意点】

ナツアカネやアキアカネの卵は乾燥に強く、冬に水田の水がなくなるとも越冬できる。したがって、農地整備による乾田化の影響は比較的小さいと思われる。平地の水田地域、溜め池など浅く開放的な水域を好むため、水田や農業用溜め池の維持・保全が重要である？ ←要チェック

【備考】

アキアカネとよく似た種にタイリクアキアカネ *Sympetrum striolatum imitoides* がいるので、[同定](#)には注意が必要である。アキアカネは日本特産種であるが、タイリクアキアカネは朝鮮半島や中国からスペインまで広範囲に分布する種で、日本では、おもに日本海と東シナ海沿いで採集されている。しかし、幼虫は確認されていないことから、日本に定着しているというより大陸から飛来していると考えられている。